令和6年度

運営に関する計画

自己評価
（最終反省）

大阪市立デザイン教育研究所

令和7年1月

（様式１）

大阪市立デザイン教育研究所 令和６年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

組織目標

学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”や“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

現状と課題

1980年代の日本は、市民生活の質的向上を背景に、個人消費や設備投資を中心とする内需によって産業が大きく飛躍し、あらゆる産業分野で「デザイン」が強く求められる時代であった。このような状況の中、美術や工芸を専門的に学んできた高校生が、デザイン・造形教育を一層深化・充実させるための専門教育機関として、大阪市は1988年に大阪市立デザイン教育研究所を創設した。以来、35年にわたって創設時の理念を継承し、高度なデザイン教育を提供することで、これまで国際文化都市大阪の発展に寄与しうる優れた人材を育成してきた。本研究所は２年制の工業専門課程を有する専修学校で、各学年の定員は４５名、総定員数は９０名の小規模校である。産業デザイン分野における全国唯一の公立専修学校として、デザインに関する知識・技術の向上をめざしている。

志願状況は、毎年、他府県からの志願者があり、本研究所の教育活動に対して全国的に一定の評価を得ている一方で、一番近い大阪府立工芸高等学校からの志願者は伸び悩んでおり、継続教育機関としての役割が低下していることも事実である。本研究所は、工芸高校に隣接し、校舎は４階建ての施設の１～３階部分を使用している。４階部分は工芸高校の格技室で、出入口などの動線は別になっているものの施設自体が工芸高校と併用する形となっており、工芸高校の府への移管に伴い様々な課題が存在している。今後も相互の密接な連携が重要事項となっている。

以上のような施設面や志願状況を踏まえたうえで、本校のシステムや特徴を十分に活用し、これまでよりも一層学生一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな指導が実現できるような学校をめざしていきたい。

中間目標

【安全・安心な教育の推進】

○ 勤労観・職業観を育てるとともに、自己の使命感の確立を目指す。

○ 「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】
○ 社会で自立できる人材を育成する。
○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。

【学びを支える教育環境の充実】
○ 教育ＤＸの推進によりカリキュラムの改革を図る。
○ 積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進める。

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】
学校園の年度目標

○ 修業年限２年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に着けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインできるように取り組んでいく。
○ 今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】
学校園の年度目標

○ 教室における講義中心の知識偏重型授業だけではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通した学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。
○ 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、２１世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

〇 ＨＰでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるよう広報活動に取り組む。

〇 学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者から要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。

3　本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

〇 「特別講義」と「キャリアデザイン」を教育課程の中にしっかりと位置付け取り組んだ結果、いろいろな角度から自分のキャリアを設計できる準備はできた。進路指導を見据えたカリキュラム改革は一定の成果を見せており、来年度も社会の動向を見据えながらカリキュラム改革を進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〇 今年度はプロダクト・スペース・ビジュアルの各担当教員が年度当初から発表を意識し「課題研究」の授業を指導した。９月に学校全体で中間発表会を行い、各学生の進捗状況を１・２年生全員に報告させている。現在、１月のデ研展でのポスター発表、２月の最終プレゼンに向けて１年間のまとめに取り組んでいる。昨年度に比べて完成度の高い発表会になることだろう。

【学びを支える教育環境の充実】

〇本年度は年度当初から志願者募集のために大阪府下をはじめ、兵庫県、和歌山県、奈良県の公立・私立高等学校や美術の塾を36校（のべ47校）訪問し広報に努めたが、残念ながら一般選抜36名、補充選抜2名の合計38名の志願者に留まった。しかしながら、工芸高校以外から15名の志願者があり、今までの工芸高校頼みの体制から少し脱却できる状況となっている。来年度はより一層広報に努めることで定員を超える志願者を集める素地は整った。

（様式２）

大阪市立デザイン教育研究所 令和６年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準
Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 **学校園の年度目標** 〇 修業年限２年という短いスパンでのキャリア教育の充実に向け、入学当初から就職活動を見据えた取り組みや社会人としての基礎知識を身に着けさせることができるように、今年からキャリアデザインの授業を新設した。一人ひとりが自分のキャリアをデザインできるように取り組んでいく。 〇 今年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで防災・減災に対する意識を育成する。	**B**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 学生が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自らの力で生き方を選択していくことができるよう、必要な能力や態度を身に付けることを通じて、社会的・職業的自立を促す。 指標 年度末での学生の就職先におけるクリエイティブ関連企業への就職率の割合を90％以上とする。	**B**
取組内容② １年次の教育課程に新設したキャリアデザインの授業を通し、未来の人生設計について入学当初から考えさせるように取り組む。 指標 学校評価アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70％以上とする。	**B**

取組内容③ 淀川・大和川右岸水防事務組合連合会からの依頼である水防事務の広報等に関するポスター等の制作プロジェクトにおいて、学生がクライアントの意向を理解し、効果的なデザイン制作を行えるよう指導することで、学生の防災・減災に対する意識を育む。 指標 プロジェクト前後に行うアンケートにおいて、「ハザードマップなどで、自宅周辺の災害リスクを確認している。」「避難場所の位置を確認している。」と回答する学生を80％以上とする。	C
取組内容④ 集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行う。 人権教育に関する活動を通じて、他者や障がいを有する人へ配慮する気持ちを養い、人権意識の向上に努める。 指標 学校評価アンケート「教職員間で連携した指導が行われている」の肯定率を70％以上とする。	B
取組内容⑤ 「キャリアデザイン」「職業指導」の授業を計画的に進めるとともに、「特別講義」「プロジェクト」等の授業との横断的な取組みを通してデザイン分野への職業観を育む。 指標 学校評価アンケート「学生一人一人の能力・適性を生かし、主体的に進路選択ができるように、きめ細かい進路指導が行われている。」の肯定率を70％以上とする。	A
取組内容⑥ 情報社会の進展に応じた情報モラルを身につけさせ、自分だけでなく他人の個人情報・法律上の権利を尊重できる態度を養い、適切な情報発信の手段・方法について指導する。 指標 成人年齢の引き下げに伴い自分の責任の大切さを理解していると答える学生の割合を80％以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 「特別講義」と「キャリアデザイン」を教育課程の中にしっかりと位置付け取り組んだ結果、いろいろな角度から自分のキャリアを設計できる準備はできつつある。学校評価アンケート「学生一人一人の能力・適性を生かし、主体的に進路選択ができるように、きめ細かい進路指導が行われている。」の肯定率を76.1％に上昇できた。 ○淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、防災・減災の意識向上を目指し取り組んだ、水防事業の広報等に関するポスター等を制作するプロジェクトについては、選考が終わりポスターやリーフレット等が多数選ばれた。学生の意識調査では「災害時の安否確認方法について家族と取り決めていますか？」との質問に対して、「はい」と回答した学生の割合が43.6％から77.1％に増加し、成果を上げることができた。
次年度への改善点
○今年度は進路指導部から学生に対して定期的に求人情報を提供することで、例年より学生の就職活動は活発になった。しかしながら、４年制大学と違い本校は２年制であるため、２年生からの就職活動のスタートでは内定に時間がかかり、年を越す前に内定者を増やすことは難しいと思われる。今後は１年生の後期末の段階である程度就職活動のスタートが切れるようにスケジュールの見直しを図っていく。 ○ 来年度は大阪府の税務署から「納税促進」プロジェクトとしてデジタルサイネージの依頼が来ており、映像系が手薄な本校のカリキュラムではあるが、取り組んだ学生が満足できるような体制作りに努めていく。デザインを通じて税について学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することで社会人としての素養を高める取り組みとしたい。

（様式２）

大阪市立デザイン教育研究所 令和６年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準
Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 **学校園の年度目標** 〇 教室における講義中心の知識偏重型授業だけではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけではなく、積極的なコミュニケーションを通した学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。 〇 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、２１世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネススキルを高める。	**B**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 学生一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、２１世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。 指標 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、年度末のデ研展で報告できた学生の割合を80％以上にする。	**B**
取組内容② グループワークや課題に協働して取り組ませることで、自己の考えを表現できる力を育て、外部の方に自分たちの取り組みをわかりやすく説明できるようにアウトプットする能力の向上を図る。 指標 デザイン教育研究所の取り組みを外部の方に積極的に説明できたと自己分析できた学生の割合を75％以上にする。	**B**

取組内容③ 「課題研究１・２」の授業を学生それぞれの興味・関心や実態に合わせながら進め、課題研究発表会で学生自らが達成感を感じられる成果発表ができるように指導し、将来、自分自身のキャリアに応用できる能力を育む。 指標 学校評価アンケート「２年次における課題研究に対して満足のいく取り組みができている」の項目を70％以上にする。	B
取組内容④ クリエーターとしての必要な英語能力を身につけ、デザインの力を現場で発揮できるように、デザインに関する簡単な英語の文章や会話を理解できる力を育成する。 指標 在校生全員にTOEIC BRIDGEを受験させ、正答率50％以上の割合を昨年以上にする。	B
取組内容⑤ 学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、学生が自ら考え、他者と協働しながら物事に取り組み、やり遂げることで、自尊感情や社会人基礎力の育成の一助とする。 指標 学校行事への参加率を昨年以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○大阪市の区長会より依頼された「カスタマーハラスメント防止」プロジェクトでは１年生全員で取り組んだ結果、約半数の学生がポスターとピクトグラムに採用された。採用者には旭区長より記念品が贈呈され、デザイン教育研究所には感謝状が手渡された。ポスターは今後各区役所に貼られ職場環境の改善に寄与できるように願っている。学校評価アンケート「プロジェクト等の活動を通して、特色ある学校づくりが行われている。」の肯定率は84.2％で高い肯定率をキープしている。 ○ 今年度はプロダクト・スペース・ビジュアルの各担当教員が年度当初から発表を意識し「課題研究」の授業を指導した。９月に学校全体で中間発表会を行い、中間発表会では各学生の進捗状況を１・２年生全員に報告させている。現在、１月のデ研でのポスター発表、２月の最終プレゼンに向けて１年間のまとめに取り組んでいる。昨年度に比べて完成度の高い発表会になることだろう。

次年度への改善点
〇来年度の１年生から、ダイハツ工業と更なる連携をし「デジタルモデラー」の授業をカリキュラムの中に取り入れ、時代の流れに即したカリキュラム開発を行い、就職の門戸を広げる予定である。 〇社会のニーズの変化にリンクするため、工芸高校とメタバースの分野で連携し２年間授業を進めてきた。来年度はその授業を受けた生徒が入学してくる初年度になる。デ研として入学してくる学生の期待にどのように応えることができるかが今後の課題となる。

（様式２）

大阪市立デザイン教育研究所 令和６年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準
Ａ：目標を上回って達成した　　Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 **学校園の年度目標** ○ ＨＰでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるよう広報活動に取り組む。 ○ 学校での学生生活を快適に過ごすことができるように、昨年度学生や保護者から要望があり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会からも改善を指摘された、トイレの洋式化に取り組む。	**B**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに犯罪被害を含む危機を回避するなど、情報を正しく安全に利用できるようにするための情報モラルの育成を図る。 指標 各授業担当者が年１回以上授業において、情報モラルについての指導を行う。	**B**
取組内容② 学生自身が心身の健康状態を正しく把握し、対応していける能力をつけるため、掲示物を作成し啓発していく。 指標 啓発のための掲示物の作成を５回以上行い、学生の心身の健康に対する意識の向上を促進する。	**B**

取組内容③ 奨学金業務の円滑な運営より、生徒が経済的な面で安心して学校生活を送れるようにする。 指標 奨学金の広報活動を工夫し周知徹底に努め、奨学金申請に関するトラブル件数を０にする。	B
取組内容④ 学校説明会や学校訪問の資料を作成し、本校受験希望者の本校への理解を深めるために学校説明会・学校訪問等を積極的に実施する。 指標 学校説明会を年間４回以上実施する。在籍生徒の母校を中心に学校訪問を20校以上実施する。	A
取組内容⑤ 教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が学生たちの前で健康で生き生きと働くことができ、学生たち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現に取り組む。 指標 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準１で50％以上、基準２で75％以上とする。	A
取組内容⑥ ＩＣＴの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。 指標 ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価を100にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
〇本年度は年度当初から志願者募集のために大阪府下をはじめ、兵庫県、和歌山県、奈良県の公立・私立高等学校や美術の塾を36校（のべ47校）訪問し広報に努めたが、残念ながら一般選抜36名、補充選抜2名の合計38名の志願者に留まった。しかしながら、工芸高校以外から15名の志願者があり、今までの工芸高校頼みの体制から少し脱却できる状況となっている。来年度はより一層広報に努めることで定員を超える志願者を集める素地は整った。 〇施設面については各階のトイレを一部洋式化し住環境の改善に取り組んだ。機器類については全教室に大型モニターを設置し、切削加工機や３Ｄプリンターを最新のものに入れ替え、レーザー加工機や電気陶芸窯を新たに導入した。学校評価アンケート「本校の施設・設備等は、学習環境として満足できるものである。」の肯定率を69.6％に上昇できた。
次年度への改善点
〇ＳＮＳでの広報活動として、デ研ブログを立ち上げ、ＬＩＮＥ公式アカウントやFacebook、Instagramから情報発信し、積極的に学校訪問した結果、工芸高校以外からの志願者が15名あり本校の存在は広く認知されつつある。しかしながら、昨年度より志願者は10名増加したが、定員を超える志願者を集めることができなかった。来年度はより一層訪問校を増やし志願者増を目指す。 〇トイレの一部洋式化は終了したが、2027年の蛍光灯生産中止に対応するために、照明機器のＬＥＤ化を計画する必要がある。まず手始めに、今年度中に２階のギャラリーの一部をＬＥＤに交換する予定である。